



グローバル Biz 専門職大学
Globiz Professional University

グローバルBiz専門職大学

臨地実務実習
(インターンシップ・プログラム)

インターンシッププログラムの狙いと特長

インターンシッププログラムは、学生が企業などにおいて就業体験を行う制度であり、本学では、産学連携の一環として、次のような狙いを持ち、取り組みを進めています。

学生が研修的な就業体験をすることにより、早い段階で社会参画意識を身につけるという大学教育上のメリット、企業に対する理解の促進や魅力の発信、結果として産業界のニーズを教育に反映させるといった企業のメリットを追求します。学生は企業の実務を経験することにより、実務課題の捉え方、解決に向けたアプローチを習得することを狙いとして毎年次の必修科目として実施しています。

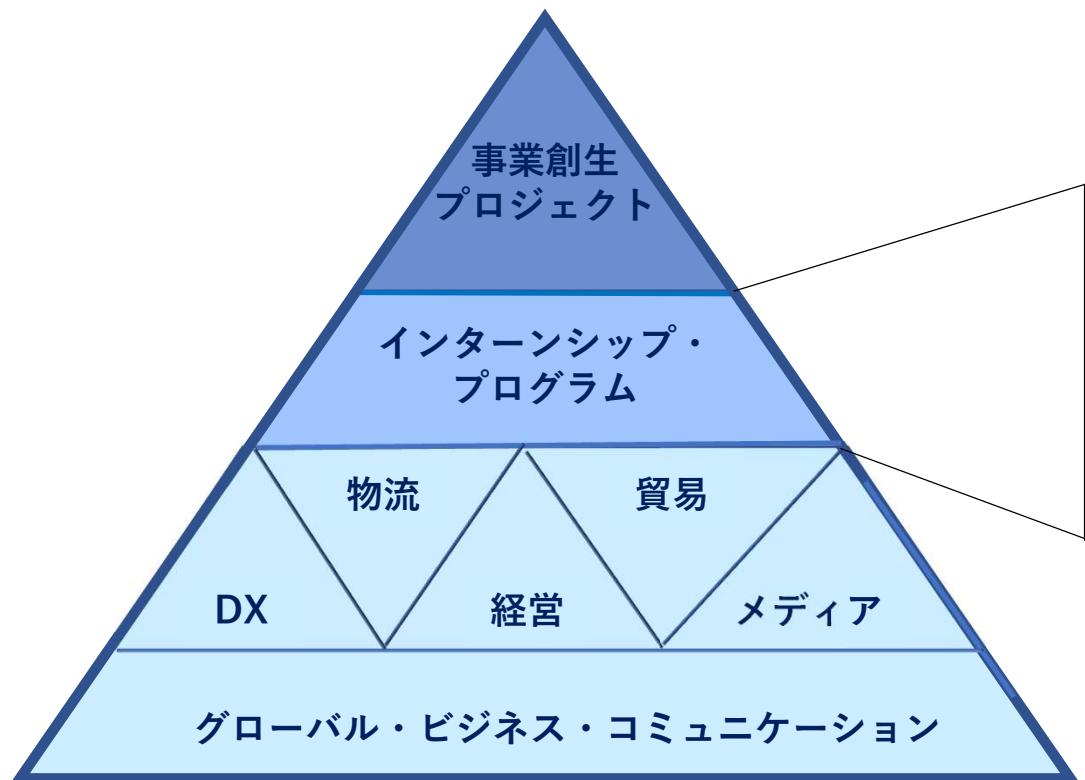
それらを実現するために、次のような特長を持っています。

- ① 正規の授業時間の一環（「理論」×「実学」両輪のカリキュラム）
実務力の習得に力点をおいたカリキュラムポリシーです。
- ② 600時間の就業体験（実学の習得により力点を置いている）
1年生から150時間、卒業までの4年間に延べ600時間（4ヶ月間）の就業体験を行います。
- ③ 事前／研修中／事後指導の充実（起業家マインドの醸成）
事前の取り組みとして企業研究をおこない、事後において自己分析をおこない効果の最大化を図ります。

本学におけるインターンの位置づけ

能力開発の重要科目と位置づけています

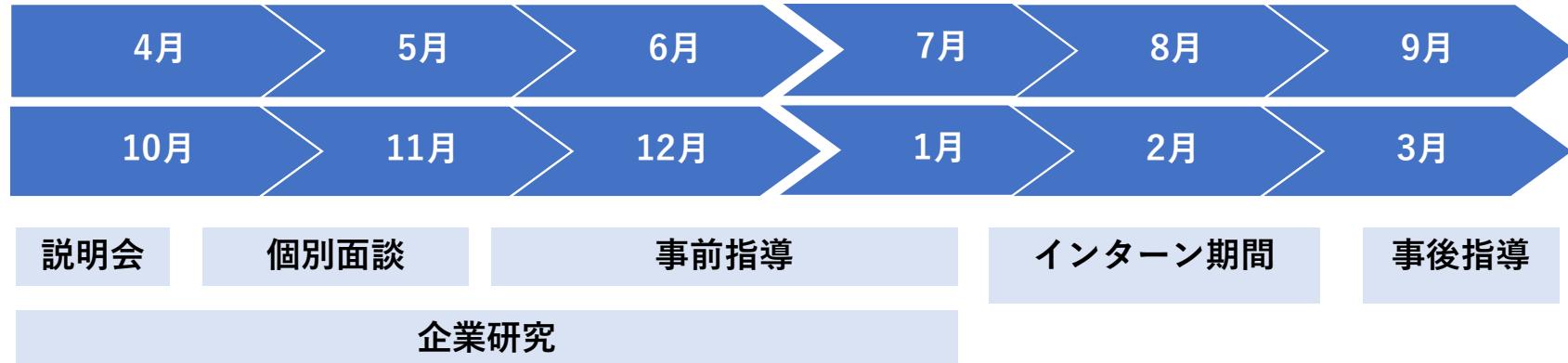
インターンシップは本学の卒業に必要な単位数の16%を占めており、かつ、必須科目となっています。各年次で150時間、期間として約1ヶ月を割り当てており、能力開発の重要科目と位置づけています。



表：インターン科目概要

科目名	年次	単位数	時間	期間
臨地実務実習Ⅰ	1年次	5	150	1ヶ月
臨地実務実習Ⅱ	2年次	5	150	1ヶ月
臨地実務実習Ⅲ	3年次	5	150	1ヶ月
臨地実務実習Ⅳ	4年次	5	150	1ヶ月

インターンシップ年間スケジュール



説明会	インターンの趣旨説明、心構え、準備すべきことの説明会を実施
個別面談	志望企業、要望をヒアリング、要望のマッチング、「臨地実務実習希望調書」作成
事前指導	ビジネスリテラシー修得、企業研究
インターン期間	受入企業先でのインターン実施と教員による巡回指導
事後指導	成果のプレゼンテーション、振り返り



インターンシップ実習分野と実習先企業様

インターンシップ実習分野	実習先企業様
●マーケティング ★事業企画、商品・サービス企画 ★イベント企画、プロモーション	・語学・教育・旅行・観光関連企業 ・IT系企業 ・スタートアップ企業
●ソフトウェア開発 ★Webシステム開発（プログラミング） ★開発企画・販売	・IT系企業 ・スタートアップ企業
●貿易・物流業務 ★物流センター・貨物輸送業務 ★通関業務	・物流系企業
●旅行・観光 ★旅行企画・手配 ★接遇・案内・通訳業務	・旅行関連企業 ・観光関連企業
●メディア ★企画・制作	・メディア系企業
●新事業 ★ソーシャルビジネス ★ESG/GX/SX	・ソーシャルビジネス企業 ・スタートアップ企業、関連プロジェクト参画 ・マーケティング、メディア、観光関連企業
●海外業務実習	（米国、カナダ、オーストラリア他）



参考：マーケティング・モデルの例

新商品企画の実践

受入れ企業の指導のもと、新商品・サービス・イベントなどの企画を実践します

実習内容

フェーズ 1

- ・オリエンテーション
- ・会社、部門紹介
- ・商品・サービス・イベント紹介
- ・課題 1
既存商品・サービス・イベントのパンフレット作成

フェーズ 2

- ・課題 2
新商品・サービス・イベント企画
- ・アイディア出し
- ・新商品・サービス・イベントの具現化
- ・パンフレット作成
- ・発表会

フェーズ 3

- ・課題 3
実施と評価
- ・問題点の抽出
- ・解決案の策定
- ・発表会

フェーズ 4

- ・課題 4
プロモーション
- ・現行サイト課題抽出
- ・コンテンツ企画
- ・コンテンツ制作
- ・発表会

参考：開発実践モデルの例

商品企画の実践

受入れ企業の指導のもと開発業務を実践します

実習内容

1週目

- ・オリエンテーション
- ・会社、部門紹介
- ・実習課題の提示
- ・要求仕様書作成

2週目

- ・分析
- ・仕様書作成
- ・仕様書発表

3週目

- ・具体設計
- ・テスト
- ・プロトタイプ作成
- ・発表

4週目

- ・プログラムの修正
- ・最終テスト
- ・負荷テスト
- ・発表

参考：インターンシップにおける企業側メリット

ポイント1 職場の活性化

学生の斬新で豊かな発想が職場に新たな力をもたらすことが考えられます。学生が見出した新たな考え方を商品企画などに活かすことを期待します。

ポイント3 魅力発信

学生が企業のことを深く理解する機会となり企業の魅力を伝える機会となります。取り組みを社会へ発信することで認知度アップも期待できます。

ポイント5 若手人材の把握・安定的確保

学生と接することで20代若手の本音を把握することができます。学生のニーズを採用活動に反映させることで安定的な人材確保が期待できます。

ポイント2 指導者の育成

学生を指導することで、指導者に指導経験を積ませることができます。若手、中堅社員の成長に活かすことができます。

ポイント4 実習プログラムの共同開発

社内教育に活かせる人材育成プログラムを大学と共同開発することができます。職場のニーズを実習プログラムへ反映させることも可能となります。

ポイント6 雇用後の早期離脱の解消

就職に憧れ、期待を持った学生に接することで、学生と企業の考え方のギャップに気づくことができます。若手早期離脱対策の施策立案に活かせます。